

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	文学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)
小項目	6.4.2 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策(院)(専門)

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 公正で透明性の高い学位論文審査体制を構築する。	→外部審査委員の委嘱状況、学位論文公開發表会、審査会の開催状況。	A	A	A	A	A
2. 学位論文執筆に向けたインセンティブを高めるための学生自身による学修・研究成果にかかる自己評価を試行する。	→履修・研究計画に対応した学生自身の研究活動に関する自己評価(特に博士論文計画書・予備論文提出などの手順を踏まえた研究進捗状況に関する評価)の実施状況。自己評価を踏まえた教員による評価・指導の実施状況。	B	B	B	B	B
3. 前期課程・後期課程修了後の進路状況を把握し、それに対応した教育内容・方法等の検討を進める。	→進路状況(就職・進学・資格取得等)の状況。それを踏まえた大学院にふさわしい指導のあり方の検討の進捗状況。	C	C	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士学位授与手続適正化のための制度改革を行い、外部審査委員の積極的登用、公開發表会の原則化、公開審査も可とするなどの一連の措置を導入した。また、全ての学位審査において公開發表会を行っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は博士学位申請論文数21の審査が行われ、そのうち外部審査委員の登用は21名であった。全ての審査において、公平で透明な審査が行われた。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か この水準を維持する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 博士論文計画書・博士予備論文の提出、および「博士論文作成演習」「特別研究」の履修をさせることで、計画的で緻密な指導を行っている。また、学内外の奨励金や日本学術振興会特別研究員等に積極的に応募させ、自らの研究に対するインセンティブの向上と自己評価を行わせている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の博士論文計画書提出数は17、予備論文提出数は8であった。また、2013年度の奨学金等の採用者数はあわせて14名(後期課程研究奨励金5名、大学院奨励研究員2名、日本学術振興会特別研究員7名(内訳:新規1名、継続6名))であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 応募者数を増加させ、採用者数の増加を目指す。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科では、研究領域によって学生の進路志望も就職状況も大きく異なるため、領域を単位にした進路志望と就職状況をきめ細かく調査している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 臨床発達心理士の学内取得を可能とする新たな科目の設置を行ったことを含め、専修免許・学校心理士などの高度専門職志望者の多い領域ではそれぞれの資格取得に対応した教育を行っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 他領域においても、学生それぞれのニーズにきめ細かく対応できるような科目の設置を目指す。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆